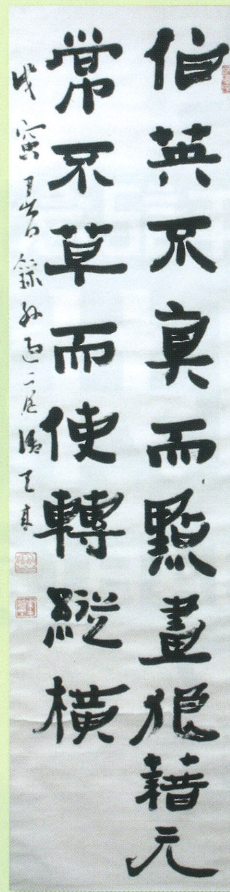


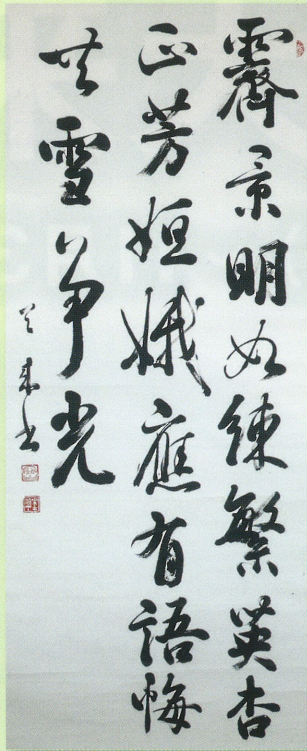
比田井天来は、明治五（一八七二）年、長野県北佐久郡協和村で生まれ昭和十四（一九三九）年に六十八歳で没した。生誕一五〇年と銘打つゆえである。名は鴻、字は象之、天来は雅号である。幼少時は依田稼堂に漢学を学び、二十六歳で上京してからは日下部鳴鶴に師事した。鳴鶴の門人は三千人と言われるが、天来は鶴門四天王と呼ばれた四人の高弟の内の一人である。

天来は、古典を多角的に研究し、臨書に新しい方法をもたらし、俯仰法を解明し、漢字各体に剛毛筆による重厚な格調高い書風を樹立した。また天来の門弟には、近代詩文書を提唱した金子鷗亭、前衛書を率いた上田桑鳩・比田井南谷、少字数を提唱した手島右卿などがあり、天来の卓越した指導力が現代書の新しい原動力になったとも言えることから、天来は「現代書道の父」と称されている。今回展では天来の作品四十五点を公開する。楊守敬がもたらした古碑法帖や拓本から影響を受けた巖谷一六・日下部鳴鶴の流れをくむ天来の悠々たる書業を御覧いただきたい。展示は十一月三十日（木）まで。なお、八月十三〜十五日はお盆休み。



伯英不真：

霽景明如練：



在昔暇日：



小原道城書道美術館

〒060-0002
札幌市中央区北2条西2丁目41
札幌2・2ビル2階
お問い合わせ先：011-552-2100
入館料：300円（大学生以下無料）
開館：午前10時～午後5時
休館：毎週月曜日
交通：JR 札幌駅より徒歩5分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

